

中外製薬会社説明会

中外製薬株式会社

代表取締役社長 CEO

奥田 修

2022年9月2日（収録）



本プレゼンテーションについて

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び将来に関する見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。

会社概要

がん・バイオに強みを持つ、研究開発型製薬企業

医療用医薬品メーカーとして日本トップクラス

売上収益 9,998億円 営業利益 4,341億円 従業員数7,664名 (2021年度決算Coreベース)

国内がん領域で売上シェア 第1位* (2021年度決算ベース)

国内抗体医薬品市場で売上シェア第1位* (2021年度決算ベース)

独自の創薬技術力

国産初の抗体医薬を創製。抗体・中分子等で世界最先端の技術力

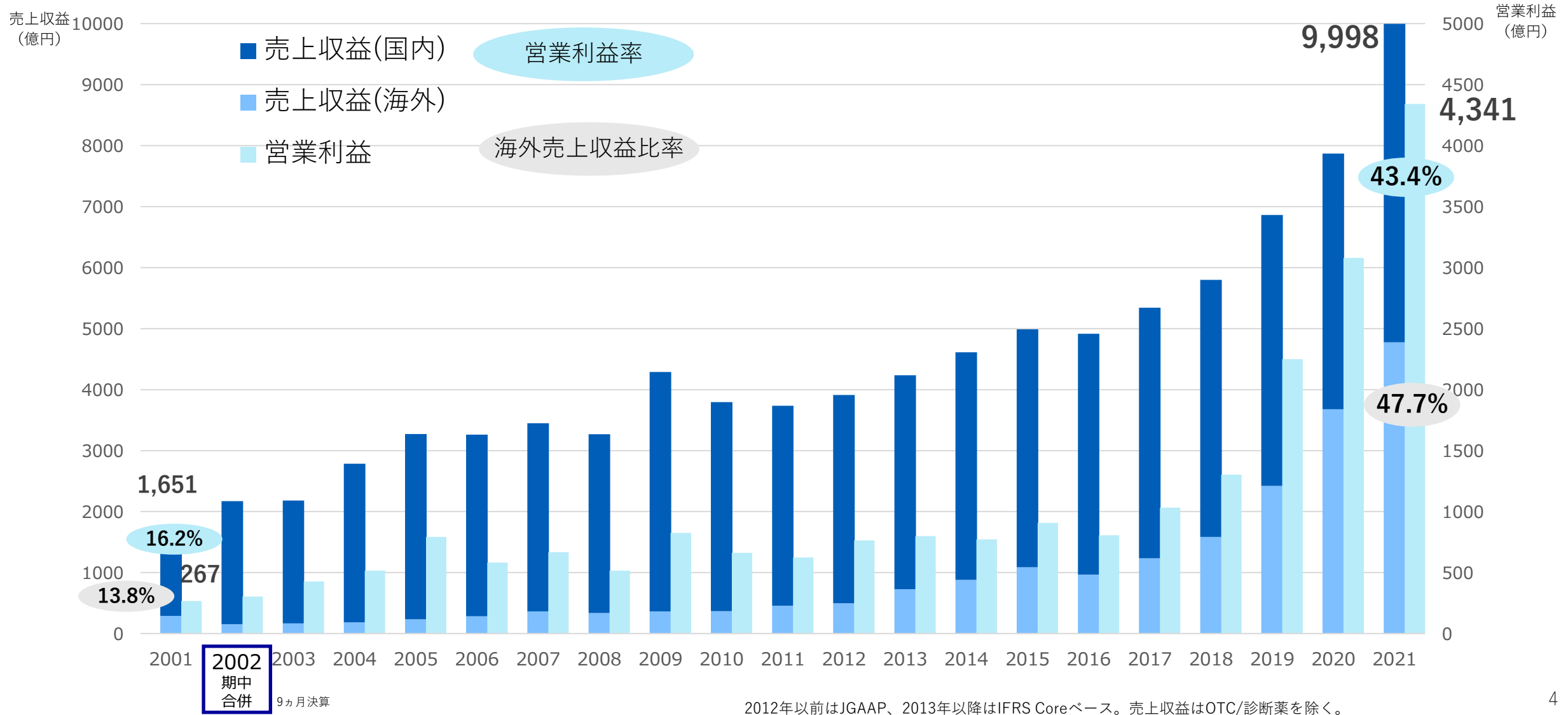
ユニークなビジネスモデル

戦略パートナーであるロシュ社が株式59.89%を保有

独立した上場企業として自主的経営を実行



20年間の軌跡



売上収益の構成

2021年度
売上収益 9,998億円

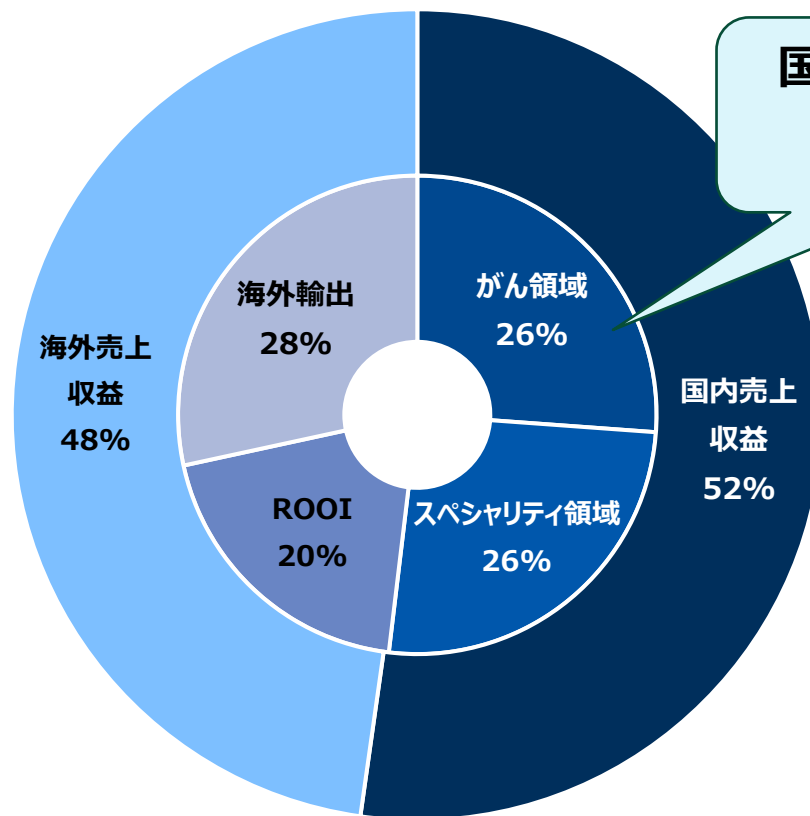
青字：抗体医薬品



スペシャルティ領域
(がん領域以外)

アクテムラ
ボンビバ
ヘムライブラ
エブリスディ
ロナプリーブ
タミフル
オキサロール

エディロール
スベニール
エンスプリング
セルセプト
ミルセラ



がん領域

アバスチン
パージェタ
ハーセプチン
リツキサン
ゼローダ
ポライビー
Foundation Medicine

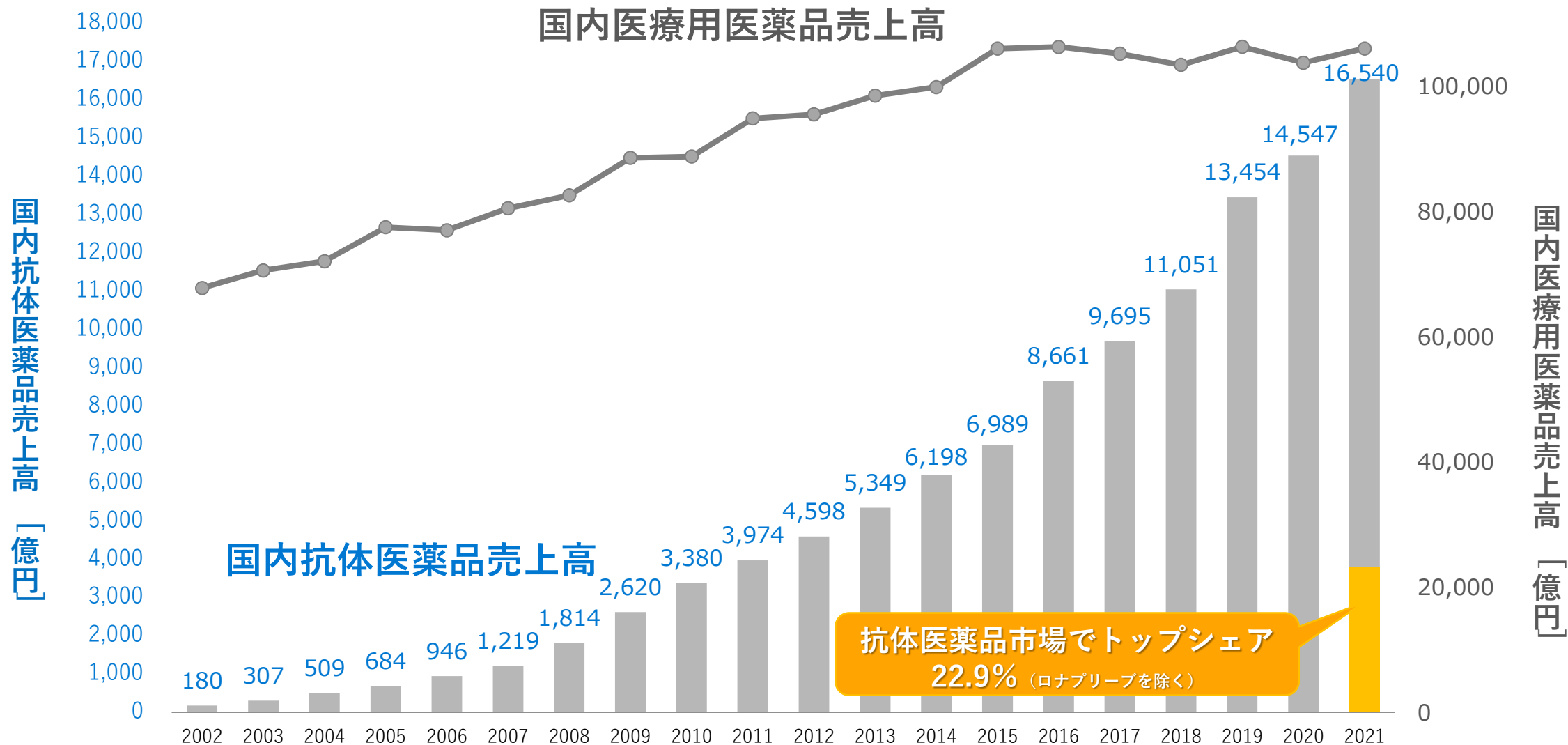
テセントリク
アレセンサ
カドサイラ
ガザイバ
ロズリートレク

ROOI: ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入

*Copyright © 2022 IQVIA.

出典：IQVIA 医薬品市場統計2021年暦月（1月－12月）をもとに作成 無断転載禁止 市場の定義は中外製薬による

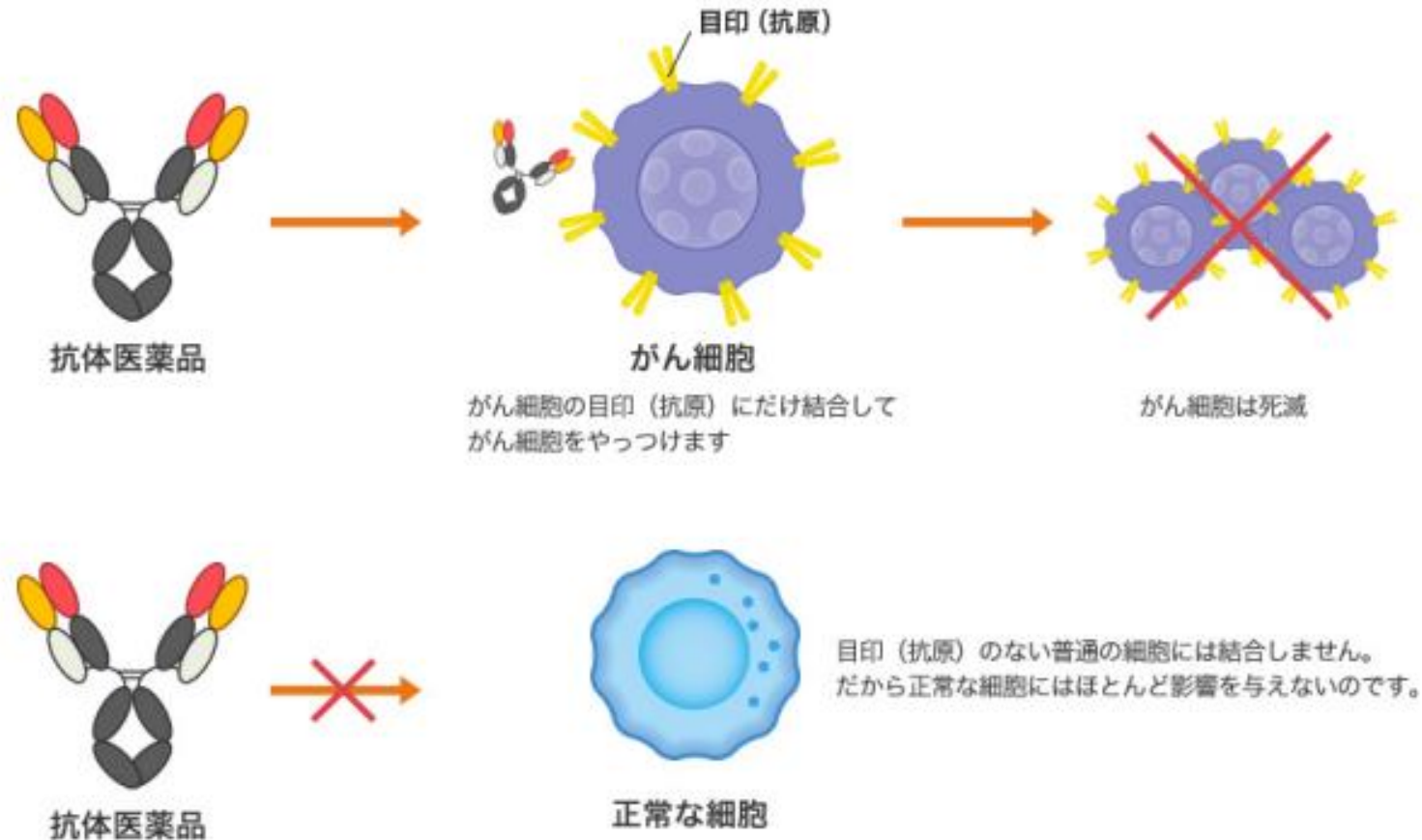
抗体医薬品の国内売上高推移



抗体医薬品とは

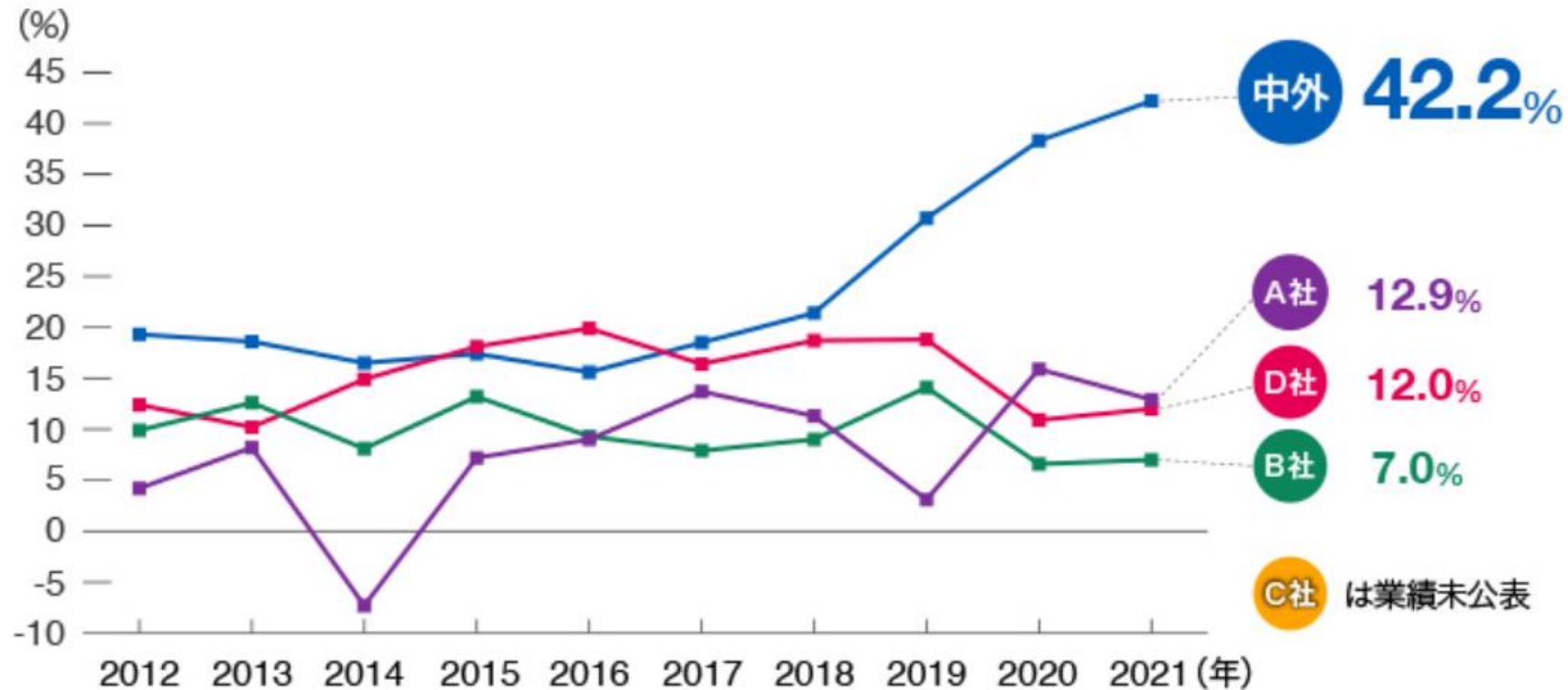
病原菌などの異物（抗原）が体内に入ってきたときに、その異物と結合して無毒化させようとする物質を抗体といいます。この作用は「抗原抗体反応」と呼ばれ、人間が持っている免疫機能と言われるものです。

抗体医薬品は、この抗原抗体反応を人工的に利用したくすりです。



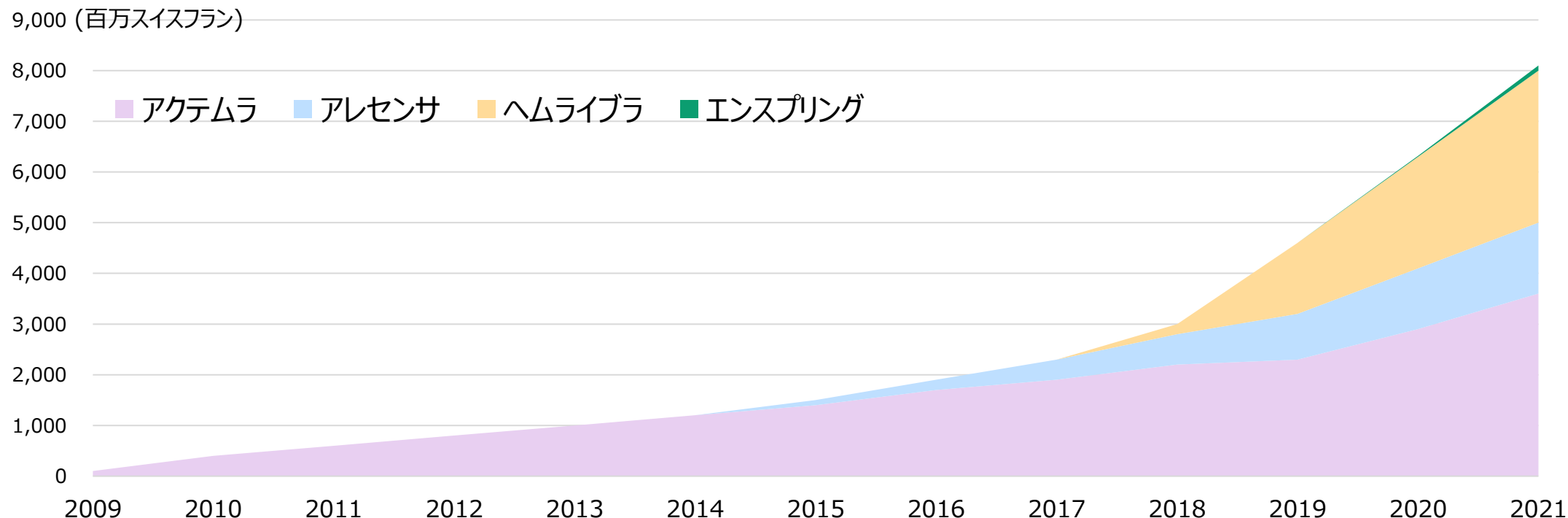
同業他社との比較 一売上高営業利益率

2021年1-12月 国内医療用医薬品売上高（薬価ベース）ランキング 上位5社における比較



出典：各社の決算短信[IFRS]（連結）より中外製薬が作成

自社創製品の世界売上高



アクテムラ®



- 日本初の抗体医薬品
- 適応症：関節リウマチなど
- 全世界で売上4,000億円以上

アレセンサ®



- 当社が推進する個別化医療の代表例
- 適応症：ALK陽性 肺がん
- 1次治療の承認取得（日/米/欧）
- 全世界で売上1,500億円以上

ヘムライブラ®



- 独自の抗体技術を活用
- 適応症：血友病A
- 全世界で売上3,500億円以上

エンスプリング®



- 独自の抗体技術を活用
- 適応症：視神経脊髄炎
スペクトラム障害

バイオをはじめとする独自の創薬技術力

- ・抗体エンジニアリング技術、低分子創薬技術に加え中分子創薬技術も開発、疾患ターゲットへの最適なアプローチを可能に
- ・がん・免疫領域の研究基盤強化による革新的なシーズ獲得



豊富な自社創製品の開発ポートフォリオ

2022年2月3日現在

創薬研究・リード骨格の最適化

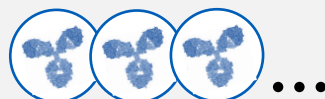
GLP-Tox

第Ⅰ相 臨床試験

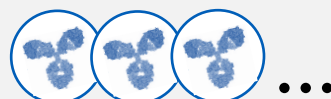
第Ⅲ相

承認済み

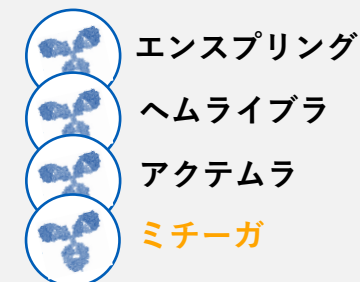
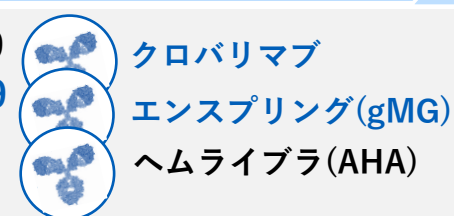
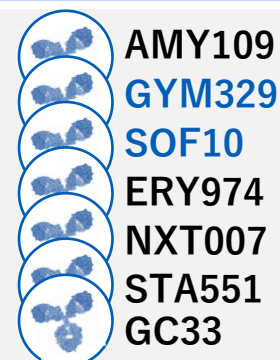
抗体医薬品



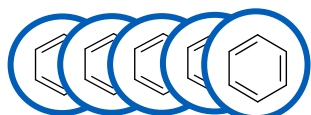
>20



6

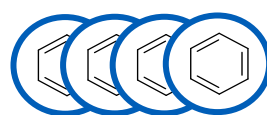


低分子医薬品



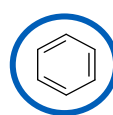
ヒット化合物の同定

5

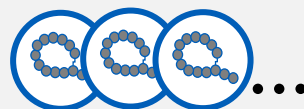


リード骨格の最適化

4

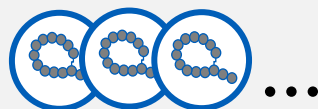


中分子医薬品



リード骨格の同定

16



リード骨格の最適化

10



2030年に向けた成長戦略 TOP I 2030

『R&Dアウトプット 倍増』 ・ 『自社グローバル品 毎年上市』

世界最高水準の創薬実現

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ R&Dアウトプット倍増により毎年自社グローバル品上市
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

先進的事業モデルの構築

- ▶ デジタルを核としたモデル再構築による患者価値・製品価値の飛躍的向上
- ▶ バリューチェーン全体にわたる生産性の飛躍的向上
- ▶ 医薬品の価値最大化と収益の柱を目指したインサイトビジネスの事業化

Key Drivers ▶ DX ▶ RED SHIFT ▶ Open Innovation

トッピイノベーター像実現に向けた5つの改革

①創薬

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

②開発

- ▶ ヒト予測の高度化や複数疾患同時開発等による製品価値早期最大化
- ▶ デジタルを活用した先進的且つ効率的な臨床開発オペレーションの実現

③製薬

- ▶ 競争優位な中分子生産技術の確立
- ▶ 世界最高水準の抗体製薬技術の確立と開発スピードの実現
- ▶ デジタル・外部を活用した効率的な生産体制の構築

④Value Delivery

- ▶ デジタルを活用した革新的な顧客エンゲージメントモデル構築による顧客価値最大化
- ▶ 独自のエビデンス創出による更なる個別化医療の実現

⑤成長基盤

- ▶ イノベーション創出を支える人財獲得、人事制度・最適組織体制の構築と運用
- ▶ CHUGAI DIGITAL VISION 2030実現
- ▶ 地球環境対策の実行
- ▶ 質と効率を両立するクオリティマネジメント
- ▶ インサイトビジネスの事業化模索

ビジネスモデル



Roche ロシュ グループ

- 中外製品をグローバル市場で最大化
- 豊富なロシュ製品を日本で展開

自社創製品

革新的・挑戦的な創薬に特化

ロシュへの導出により
グローバル開発・販売を加速



- ロシュ製品を日本市場で最大化
- 革新的な中外創製品をグローバルで展開

ロシュ導入品

有力新薬候補を
日本市場で独占的に開発・販売

国内事業で安定的な
収益を確保

取締役会の構成



奥田 修：社長 CEO



山田 尚文：上席執行役員



板垣 利明：上席執行役員 CFO

中外から3名



奥 正之



一丸 陽一郎



桃井 眞理子

社外から3名
(いずれも独立)



クリストフ・フランツ



ウィリアム・エヌ・アンダーソン

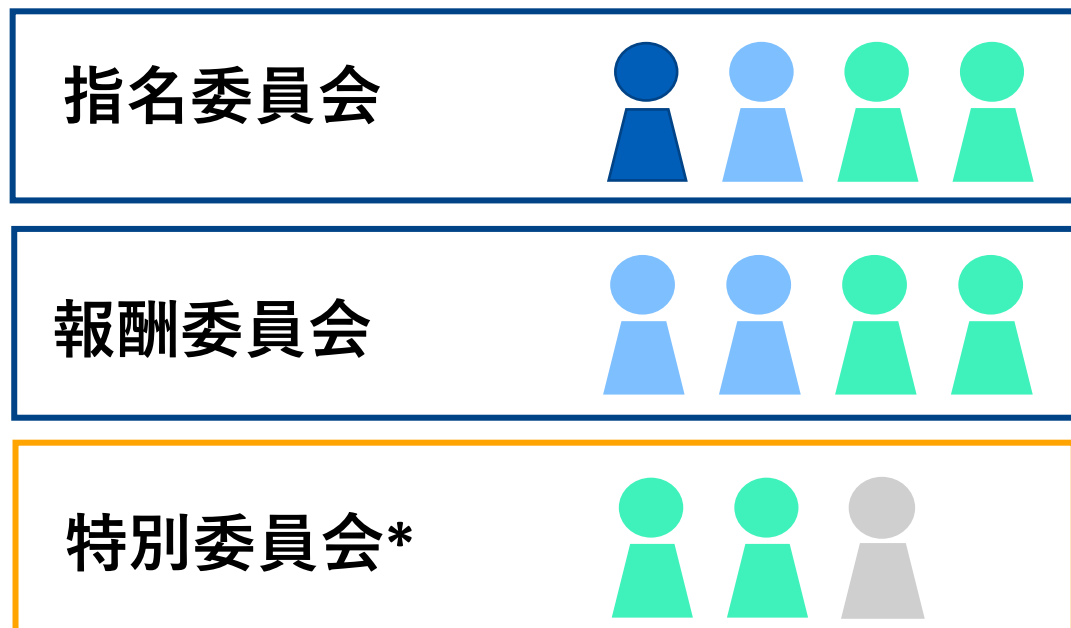


ジェイムス・エイ・サブリー

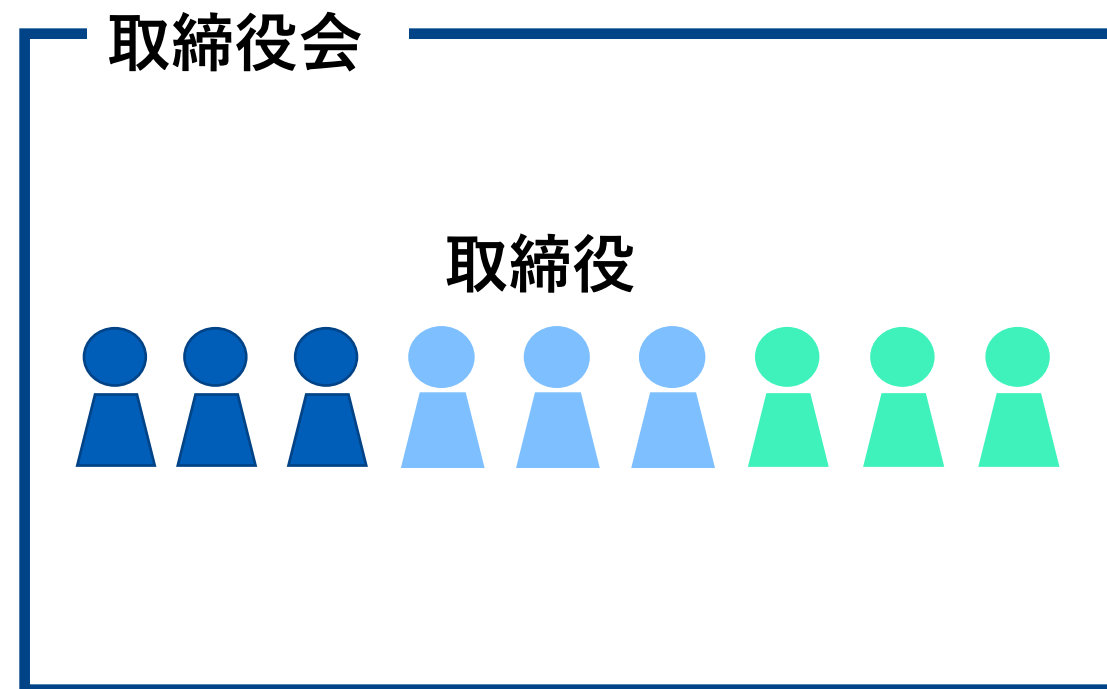
ロシュから3名

ガバナンス体制

2022年9月2日現在



*親会社であるロシュと少数株主の利益が相反する可能性のある重要な取引について審議・検討を行う



業務執行取締役



非業務執行取締役



独立社外取締役



独立社外監査役

今後の申請予定 (PoC取得済開発品・製品)

2022年7月21日現在

新規 適応拡大
 自社創製品 (グローバル開発) ■ □
 ロシュ導入品 (日本開発販売) ■ □

★ 新規追加
 ★ 申請年変更

DLBCL: びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
 PNH: 発作性夜間ヘモグロビン尿症
 NSCLC: 非小細胞肺癌
 SCLC: 小細胞肺癌
 MIBC: 筋層浸潤性膀胱がん
 aHUS: 非典型溶血性尿毒症症候群
 nAMD: 中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性

DME: 糖尿病黄斑浮腫
 DMD: デュシェンヌ型筋ジストロフィー
 MOGAD: 抗ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク抗体関連疾患

申請中		★ 新規追加 ★ 申請年変更		MIBC：筋層浸潤性膀胱がん aHUS：非典型溶血性尿毒症症候群 nAMD：中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性		
ガザイバ (RG7159) 慢性リンパ性白血病	テセントリク 2L NSCLC (カボザンチニブ併用)					
ポライビー (RG7596) 1L DLBCL	テセントリク (RG7446) NSCLC (ネoadjuvant)	バビースモ (RG7716) 網膜静脈閉塞症			★ プラルセチニブ水和物 (RG6396) 1L NSCLC	
アクテムラ (MRA/RG1569) COVID-19肺炎(米国)	ガンテネルマブ (RG1450) アルツハイマー病	アバスチン (RG435) 1L SCLC (テセントリク併用)	mosunetuzumab (RG7828) 3L 濾胞性リンパ腫		mosunetuzumab (RG7828) 2L濾胞性リンパ腫	★ ガザイバ (RG7159) ループス腎炎
ヘムライブラ (ACE910/RG6013) 血友病A(軽症~中等症) (欧州)	チラゴルマブ (RG6058) 1L NSCLC (テセントリク併用)	★ テセントリク (RG7446) 頭頸部がん(維持療法)	チラゴルマブ+テセントリク (RG6058+RG7446) 食道がん	テセントリク (RG7446) MIBC (adjuvant)	giredestrant (RG6171) 1L 乳がん	テセントリク (RG7446) 2L 肝細胞がん
	イパタセルチブ塩酸塩 (RG7440) 1L 前立腺がん	テセントリク+アバスチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん(adjuvant)	チラゴルマブ+テセントリク (RG6058+RG7446) NSCLC (ステージ III)	ラニビズマブ(PDS) (RG6321) nAMD/DME	giredestrant (RG6171) 乳がん (adjuvant)	テセントリク+アバスチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん (intermediate stage)
	アレセンサ (AF802/RG7853) NSCLC (adjuvant)	テセントリク (RG7446) 2L 腎細胞がん (カボザンチニブ併用)	エンスプリング (SA237/RG6168) 全身型重症筋無力症	SRP-9001 (RG6356) DMD	クロバリマブ (SKY59/RG6107) 鎌状赤血球症	テセントリク (RG7446) 早期乳がん(ネoadjuvant)
RG6264 (配合剤, 皮下注) 乳がん	クロバリマブ* (SKY59/RG6107) PNH (中国：2022年申請予定)	テセントリク (RG7446) 1L 尿路上皮がん	クロバリマブ (SKY59/RG6107) aHUS	★ プラルセチニブ水和物 (RG6396) 2L NSCLC	★ GYM329/RG6237 +エプリスディ 脊髄性筋萎縮症	テセントリク (RG7446) 早期乳がん(adjuvant)

2022

2023

2024

2025以降

PoC後プロジェクトの市場売上

黒字の製品：2022～2029年、紫字の製品：2030年以降をピークセールス年と想定

自社創製品

★★★★★ グローバル4,000億円超	★★★★ 同2,000億円超	★★★ 同 1,000億円超	★ 同 1,000億円以下
ヘムライブラ (血友病A、後天性血友病A)	エンスプリング (視神経脊髄炎スペクトラム障害、 全身型重症筋無力症、他) ネモリズマブ* (結節性痒疹、アトピー性皮膚炎)	アレセンサ (非小細胞肺癌、非小細胞肺癌 (アジュバント)、未分化大細胞リンパ腫、他) クロバリマブ (発作性夜間ヘモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症症候群、鎌状赤血球症、他)	

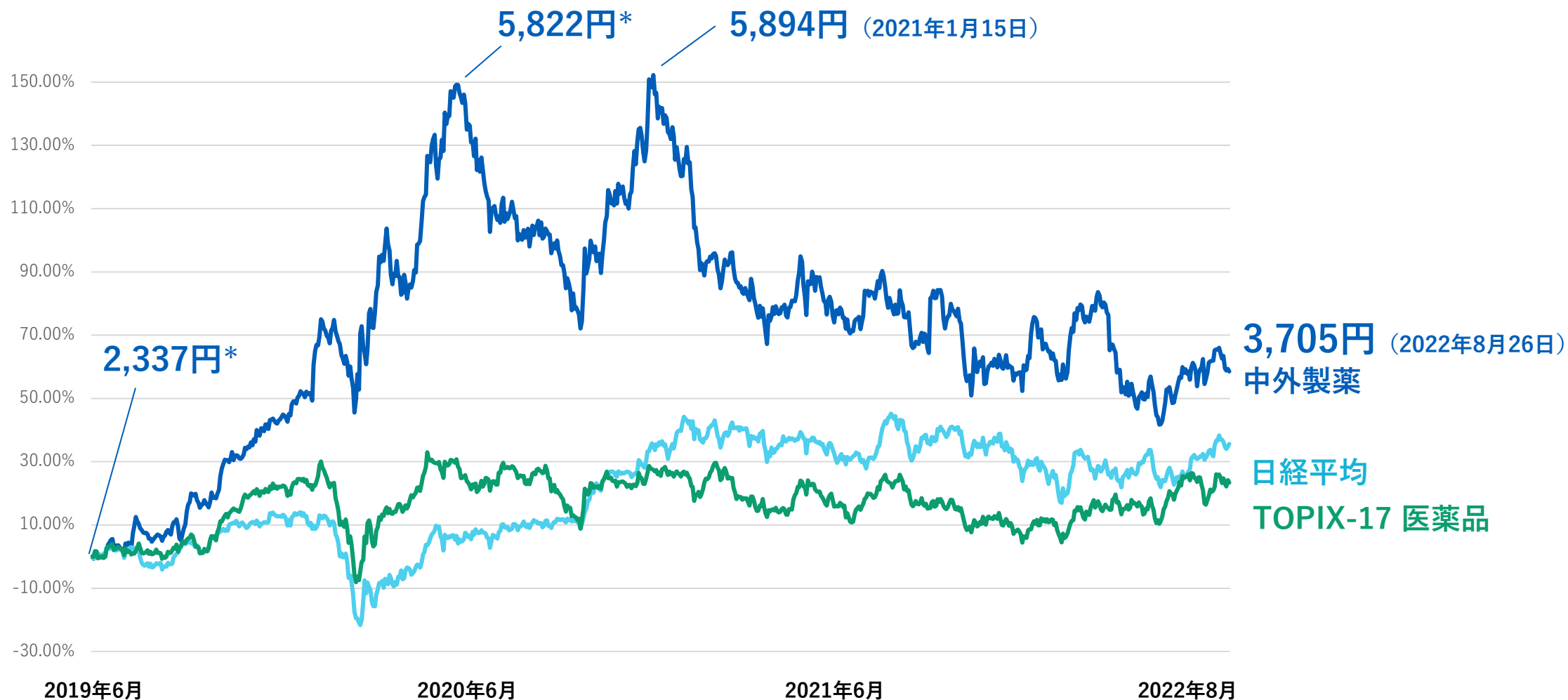
ロシュ導入品

★★★★★ 国内600億円超	★★★★ 同300億円超	★★★ 同 150億円超	★ 同 150億円以下
テセントリク [1,000億円超] (非小細胞肺癌、小細胞肺癌、 尿路上皮がん、腎細胞がん、前立腺がん、 肝細胞がん、トリプルネガティブ乳がん、 卵巣がん、頭頸部がん、食道がん、 膵臓腺がん、他)	ポライビー (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫) ファリシマブ (加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫、 網膜静脈閉塞症) ガンテネルマブ (アルツハイマー病)	エブリスディ (脊髄性筋萎縮症) ハーセプチン/パージェタ配合剤 (早期乳がん、転移性乳がん) チラゴルマブ (非小細胞肺癌 stage III、非小細胞肺癌 1L、 小細胞肺癌 1L、食道がん) Giredestrant (早期乳がん、転移性乳がん)	ガザイバ (濾胞性リンパ腫、他)

*海外はGalderma社、国内はマルホ社に導出済み。Galderma社およびマルホ社の予想に基づく

() 内は予想に含まれる適応症

株価推移（終値）



*：2020年7月1日を効力発生日として普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行っております。
2020年6月30日以前の株価は、当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

株式の基本情報

■ 単元株：100株 ■ 証券コード：4519（東証プライム市場） ■ 株主優待：なし

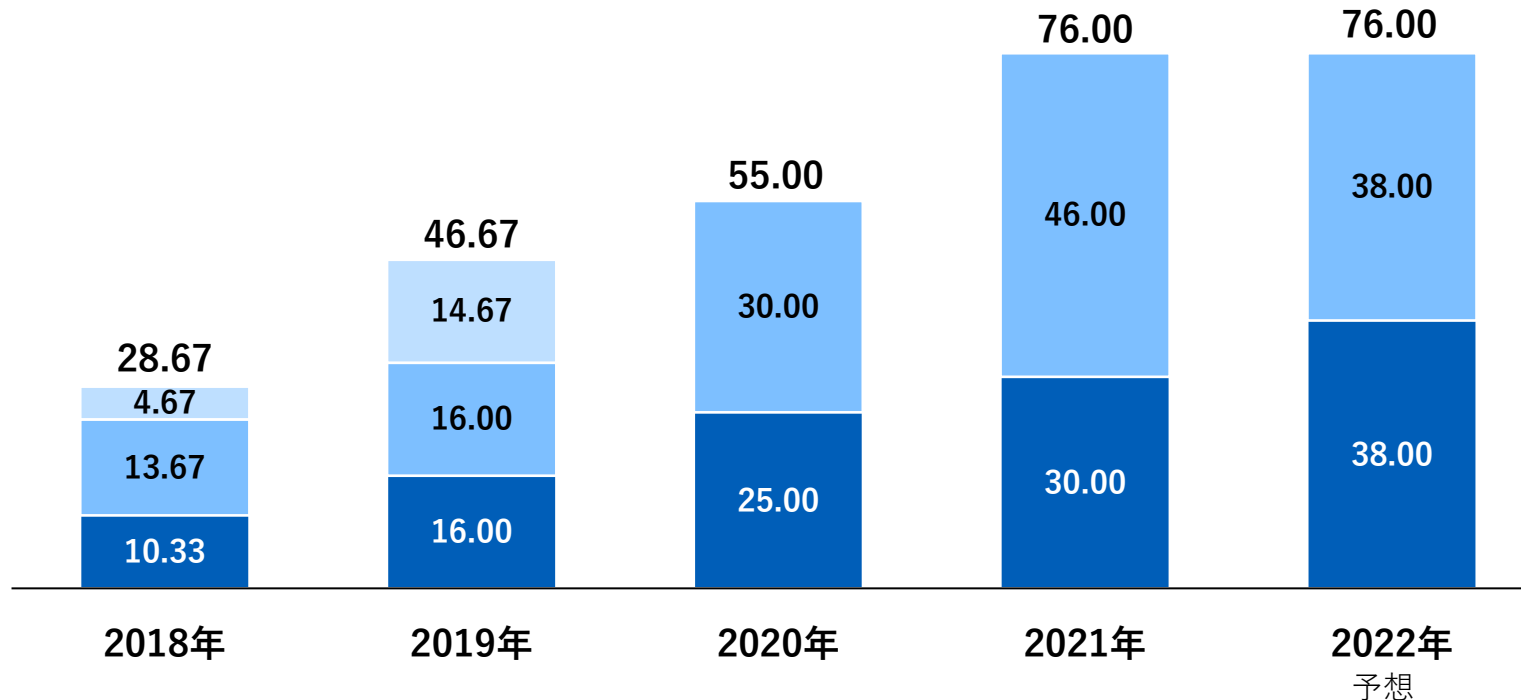
■ 利益配分に関する基本方針

戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案した上で、Core EPS対比**平均45%の配当性向を目処に、安定的な配当**を行うことを目標とします。

【円】

期末配当（特別）
期末配当（普通）
中間配当

2020年7月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行った。
2018年期首に株式分割が行われたと仮定して算出



配当性向	5年平均	48.6%	47.4%	44.9%	42.9%	41.9%
	単年度	48.7%	45.8%	41.2%	40.1%	40.0%

お問い合わせ先

広報IR部 インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554

E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当 : 櫻井、佐藤、島村、吉村、山田

創造で、想像を超える。